

# 市史通信

## 第50号

【発行日】2024年7月31日  
 【編集・発行】横浜市史資料室  
 〒220-0032  
 横浜市西区老松町1番地  
 横浜中央図書館・地下1階  
 【電話】045-251-3260  
 【FAX】045-251-7321  
 【E-mail】  
 sisiryou@ml.city.yokohama.jp  
 【ホームページ】  
<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/gaiyo/shishiryoy/>

- 【目次】
- 『令女界』読者グループR・J・Rの活動と女性たち
  - 地形図でたどる野毛山の周辺
  - 「神奈川県内製産実用工芸品調査書」(1934年)について
  - 所蔵資料紹介  
『モード』第17号(1957年3月)
  - 市史資料室たより



R・J・R横浜支部第1回茶話会  
 『令女界』第15巻第3号(1936年3月)より 横浜市史資料室所蔵

## 『令女界』読者グループR・J・Rの活動と女性たち

はじめに

『令女界』は一九二二(大正一一)年四月に、東京の宝文館から少女雑誌として創刊された月刊誌である。一九四四(昭和一九)年五月号から一九四六(昭和二一)年三月号までは休刊。戦後再刊して、一九五〇(昭和二五)年九月号まで続いた。岐阜県出身の北村秀雄が編集に従事して、女学生から「女子青年」向けの雑誌として定着させた。一九三五(昭和一〇)年三月に、全国的な『令女界』読者グループ「R・J・R令女純情連盟(以後、R・J・Rと記載)」を結成した。

横浜市史資料室は、横浜支部を中心に各地のR・J・R支部に関する写真を取めたアルバムを所蔵している。横浜の詩人篠原あや(本名吉田静子、旧姓田中)から寄贈を受けた資料である。篠原は一九一七(大正六)年に、現在の中区に生まれた。一九三五(昭和一〇)年に、高木高等女学校専攻科(現在、英理女子学院高等学校)を卒業した。その頃から『令女界』を愛読し、R・J・R横浜支部の幹事であった。篠原とその資料については、羽田博昭が、横浜市史資料室の複数の刊行物で紹介している。

筆者は、『令女界』読者グループ「R・J・R令女純情連盟」横浜支部について「横浜市史資料室

紀要」第一四号(二〇二四年)で、主に『令女界』に掲載された「R・J・R告知板」から、横浜支部の行事報告を紹介した。横浜市史資料室では、昨年度二冊の『令女界』を収集した。第一五巻第三号(一九三六年三月)と第一八巻第一号(一九三九年一月)である。いずれも横浜支部の報告が掲載されている。本稿では、これらの資料を含め横浜支部の行事をまとめ、改めて紹介したい。

### 第一回「茶話会」と北林透馬

全国的なR・J・Rが結成された翌一九三六(昭和一一)年に、横浜支部が発足した。上の写真は、第一回横浜支部「茶話会」のものである。茶話会は一月七日午後一時より、横浜山手の北林透馬邸で開かれた。前列右から二人目に巽(たつみ)寿美子(宝塚少女歌劇団の男役)、二列目左端が作家の北林透馬(一九〇四―一九六八)である。『令女界』第一五巻第三号に、報告と共に掲載された。同誌グラビア頁(図1)の撮影に訪れていた巽と北林を囲み、小説や歌劇の話などをしたという。最後に福引をして、午後五時に閉会した。参加者は一名。報告には、「ほんとに楽しい午後でした」と記している。



図1 北林透馬「僕のディー・パーティー」  
 『令女界』第15巻第3号より 横浜市史資料室所蔵  
 後列右に北林、前列右に巽寿美子が写る。